

第6回ファザー・オブ・ザ・イヤーinみえ受賞者(敬称略)

賞	部門	氏名	ふりがな	住所	推薦者	子どもの年齢	概要
大賞	パパの子育てエピソード部門	伊藤 大輔	いとう だいすけ	松阪市	伊藤 晴苗(妻)	7か月	1年間の育休を取得し、子育てをするとともに、妻の仕事もサポート。月に1度、妻と娘に手紙を贈る。
		倉田 祐樹	くらた ゆうき	鈴鹿市	倉田 倫子(妻)	3歳	片付けの嫌いな娘のために、手作りの道具をつくとともに、歌遊びをしながら片付けることを教える。
		宮林 亮太	みやばやし りょうた	松阪市	宮林 見圭(妻)	1歳	子どもが生まれてしばらくは、テレワークを活用し、妻と一緒に育児。その後も積極的に家事育児を行い、子どもの1歳の誕生日には、「母1歳おめでとう」といって妻に指輪をプレゼント。
	パパの料理エピソード部門	倉田 幸則	くらた ゆきのり	津市	倉田 多万貴(妻)	27歳	子どもが中学、高校の6年間、お弁当にいれる卵焼きを作る。日々の小さな積み重ねが子どもの大切な思い出に。
わたしの職場のイクボス部門	松本 圭介 (株式会社ファーストステップ)	まつもと けいすけ	四日市市	戸崎 裕一(部下)		「仕事をがんばることができるのは家族や周囲の支えがあってこそ」との考えで、社員交流のイベントに家族も参加できるものを加える。また、大人数でのイベントではなく、少人数のイベントを複数回、家族向け、女性向けなど対象者を変えて実施。	
部門賞	パパの子育てエピソード部門	田中 祐介	たなか ゆうすけ	津市	田中 彩佳(妻)	2歳、4歳	育休から復帰した妻と分担し育児を行い、乗り物が好きな子どもとは近場でも電車やバスを使いおでかけ。
		吉田 正男	よしだ まさお	津市	吉田 希(妻)	1歳	子どもが生まれてからは早く帰宅、家事の大半をこなし、休みの日には必ず娘と出かける。
	パパの料理エピソード部門	宇佐美 正幸	うさみ まさゆき	桑名市	宇佐美 紘奈(妻)	9か月	料理経験がまったくない中、朝晩の料理を担当。キャベツを手でちぎるなどパワフルな料理で家族を元気に。
		小林 慎	こばやし しん	津市	小林 愛(妻)	1歳、2歳	妻の誕生日を子どもとの手づくりケーキでお祝い。
	わたしの職場のイクボス部門	久保 敏彦 (有限会社KBデザイン)	くぼ としひこ	津市	森松 千恵(部下)		「イクメン」「イクボス」といった言葉が聞きなれない10年以上前から、在宅での仕事の許可や、子どもの夏休みや学校行事にも配慮し、部下の子育てをサポート。
渡邊 康人 (株式会社百五銀行)	わたなべ やすひと	津市	森下 俊紀(部下)		子どもが急に体調不良となった部下に代わり、快く仕事を引き受ける。サポートしてもらった部下も次は自分がとチームでの仕事を意識。		
グッドエピソード賞	みんなの子育てエピソード部門	内田 恭史	うちだ やすふみ	菟野町	本人	5歳	妻の出産による里帰りの際に、子どもと2か月間二人で生活。職場が設けている育児のための休暇制度を活用し、周囲の助けも借りながら子育ての楽しさを実感。
		廣澤 伸一	ひろさわ しんいち	志摩市	廣澤 幸奈(妻)	10歳	障がいのある子どもの成長にあわせ、妻と主婦を交代し、家事や子育てを行う。
		平岡 孝紀	ひらおか たかのり	伊勢市	本人	5歳	音楽が好きで、娘もピアノ教室に。発表会では伴奏として一緒に演奏。
		前田 浩	まえだ ひろし	津市	本人		妻の転勤により、娘と二人で生活をする中で、毎日お弁当を作る。「やる以上は楽しみながら」「料理の腕前もあがる」と前向きに考え、3年間毎日お弁当を作った。
	パパの料理エピソード部門	秋田 五百寿	あきた かずとし	津市	妻	4歳	趣味の釣りで釣った魚を子どもと一緒に調理。
		鬼寅 紘史	きとら ひろし	伊勢市	鬼寅 裕美(妻)	4歳、6歳、8歳	親子で魚釣りに行き、一緒に料理し、魚や命について一緒に学ぶ。
		國分 雄一	こくぶ ゆういち	亀山市	國分 奈央(妻)	6歳、9歳、14歳	ソーセージでタコや宇宙人を作り、チャーハンの中に隠すなど子どもも楽しめる料理をつくる。
		森多 悠介	もりた ゆうすけ	津市	森多 しほ(妻)	4歳、8歳	妻の体調不良の際に特製「親子丼」を作る。
	わたしの職場のイクボス部門	大西 有 (万協製薬株式会社)	おおにし たもつ	多気町	服部 美穂(部下)		子育て中の部下だけでなく、独身の部下にも配慮し、職場全体に思いやりの連鎖を作り出す。
山川 慶人 (万協製薬株式会社)		やまかわ よしと	多気町	朝倉 莉子(同僚)		家族参加型のイベント「ダラソン」を企画。	